

5 徳島県立文学書道館【予算 22,357千円】

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業等に活かし、広く県内外から親しみ利用される施設となるよう魅力ある事業展開を図る。

(1) 顕彰、表彰事業【予算 1,500千円】

	事業名	概要	予算額(円)	備考
1	第15回とくしま文学賞	<p>広く県民から文芸作品(小説・脚本・文芸評論・児童文学・随筆・現代詩・短歌・俳句・川柳・連句の10部門)を募集し、発表の場を提供することにより文芸活動の活性化、県民文化の向上を図る。各部門の入選作品は、「文芸とくしま」に掲載し紹介する。</p> <p>応募締切:9月30日(土)当日消印有効 発表:12月中旬(新聞紙上・館内掲示・HP) 表彰式:平成30年2月11日(日・祝)</p>	1,500,000	
	小計		1,500,000	

(2) 年鑑編集・刊行事業【予算 765千円】

	事業名	概要	予算額(円)	備考
1	ことのは文庫 「随筆集 寂聴と徳島」	<p>瀬戸内寂聴がふるさと徳島の自然や伝統芸能、ゆかりの人を描いた随筆37篇を収録する。</p> <p>文庫本サイズ 1,000部</p>	520,000	
2	研究紀要「水脈」14号	<p>館が所蔵する文学者や書家に関する作品や資料等の調査研究を行い、その成果を紹介するために刊行する。</p> <p>B5版サイズ 700部</p>	245,000	
	小計		765,000	

(3) 教育普及育成事業【予算 1,877千円】

	事業名	概要	予算額(円)	備考
1	文学講座 芸術・文化を語る	<p>徳島ゆかりの芸術家・研究者に専門分野の話をしてもらい、平和で心豊かな社会の創造について考える。</p> <p>日時:4月～9月(全4回・各土曜) 会場:講座室</p>	353,000	
2	文学講座 言の葉テーマ朗読会	<p>展示会のテーマ等に応じた文章を、講座生の中から希望者8人が、5分ずつ読み、一般に公開する。</p> <p>日時:5月～1月(全4回) 会場:講座室</p>	10,000	
3	文学講座 現代文学を読み解く	<p>芥川賞などの受賞作や、話題になっている作品についての読書会。参加者が意見を出し合うほか、毎日新聞に書評を連載している関西大学の増田周子教授に読み方をアドバイスしてもらう。</p> <p>日時:5月～2月(全5回・各土曜) 会場:講座室</p>	130,000	

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
4	文学講座 若い人たちのための小説家養成講座	18～39歳を対象にした小説の実作講座。講師は作家であり、実作指導に定評のある四国大学の佐々木義登准教授。 日時:8月～3月(全9回・各土曜) 会場:講座室	250,000	
5	文学講座 親子で楽しむ絵本づくり	県内で活躍している児童文学作家による絵本づくり講座。想像力を働かせる楽しさや物語を創る喜びを体験しながら一冊の絵本を作っていく。 日時:8月20、27日(全2回・各日曜) 会場:講座室	120,000	
6	第16回言の葉朗読会	朗読を楽しみ、朗読の質の向上をめざす人たちに舞台を提供し、朗読を聞くことが好きな人たちにその機会を設ける。各自が選んだ文学作品を5分以内で朗読する。 日時:9月23日(土) 会場:講座室	10,000	
7	文学講座 秋の文学講演会	現在、第一線で活躍している作家や詩人、歌人、俳人などを招き、これまでの歩みや自作について話してもらい、文学についての理解を深め、世界や人間の在り方を考える。 日時:10・11月(全2回) 会場:ギャラリー	450,000	
8	書道講座 墨色を知る	墨の製造に関わる人を講師に招き、つくり手から墨色について学ぶ講座。講話と実習による専門性の高い講座とする。 日時:7月26日(水) 会場:実習室	113,000	
9	書道講座 かなを学ぶ いろは歌	前回受講できなかった人を対象に開催する。基礎としてのかなの「単体」を学び、次回開催の「続け書き(連綿)」につなげる。 日時:未定(全3回・各日曜) 会場:実習室	60,000	
10	書道講座 書道創作講座 行書	これまでの書体別基本講座を踏まえた創作講座。昨年開催の「書道創作講座 楷書」に続く講座で、行書を使って楽しく創作する。 日時:未定(全3回・各日曜) 会場:実習室	15,000	
11	書道講座 外国人のための書道講座	外国人対象の書道講座。筆の持ち方や基本的な筆遣い、美しい文字の形を学び、小品を制作する。 日時:未定(全2回) 会場:実習室	68,000	

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
12	書道講座 書の鑑賞 仮名	仮名の著名な作家を県外より講師に招き、仮名の美や魅力について理解を深める。 日時:未定 会場:講座室	183,000	
13	書道講座 新春 書き初め 大字に挑戦!	小学生対象の講座。新年の書き初めにちなんで、漢字一字を特大筆(全長46cm・穂長14.5cm・穂径4cm)で70×70cmの紙に書く。未経験の大字を書くことで、書に親しみ、書の楽しさを知ってもらう。 日時:1月(未定) 会場:講座室・実習室	43,000	
14	書道講座 楽しい手紙	連綿(続け書き)を学んで手紙を美しく書く講座。ペンを使って連綿の仕方を学び実生活に生かす。 日時:未定(全3回) 会場:実習室	72,000	
	小計		1,877,000	

(4) 展示事業【予算 18,215千円】

	事業名	概要	予算額(円)	備考
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生をたどりながら寂聴文学を紹介する。嵯峨野「寂庵」を模した書斎や、心和ませる日本庭園を設置している。年数回の展示替えを行っている。 期間:通年 会場:瀬戸内寂聴記念室	—	
2	文学常設展 文学常設展示室 (常設展示事業)	徳島の人・場所・文化が織りなす文学回廊。徳島にゆかりの深い文学者とその作品、徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から感じとれる展示としている。展示室では、年2回の小テーマ展も開催している。 期間:通年 会場:文学常設展示室	—	
3	文学常設展 収蔵展示室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラスウォールを通して公開している。また、特別展に関連した展示や収蔵品を紹介する。 期間:通年 会場:収蔵展示室	—	
4	書道常設展 書道美術常設展示室 (常設展示事業)	収蔵品の中から、徳島にゆかりのある書家の作品を中心に展示している。また、小坂奇石の息づかいが感じられる書斎を再現している。年3回展示替えをし、豊富な作品を幅広く紹介する。 期間:通年 会場:書道美術常設展示室	—	

(4) 展示事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
5	文学特別展 寂聴と徳島 (特別展示事業)	瀬戸内寂聴は徳島に生まれ、その風土の中で育ち、作家になった。徳島の自然や伝統、ゆかりの人を描いた寂聴の文章をとりあげ、著作や写真、関連資料とともに展示し、寂聴と徳島の結びつきや、寂聴がいかにかつに文化的な貢献をしてきたかを紹介する。また寂聴の出家の瞬間を撮影した写真家、勝山泰佑氏の写真を「寂聴さんと あのとき あのひと」と題して、関連展示する。 期間:4月8日～5月28日 45日間 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	2,700,000	
6	書道特別展 奇石の「かすれ」 (特別展示事業)	小坂奇石(1901～91年)は、独創的で他の追随を許さない独自の書風を確立した昭和を代表する書家である。当館では、遺族より寄贈された作品約370点の傑作を収蔵しており、毎年それらの中から選りすぐりの作品を紹介している。本展では、「かすれ」にスポットをあてて奇石の魅力を紹介する。また、他の収蔵書家の作品も比較展示し、「かすれ」が奇石の作品にもたらした効果を紹介する。 期間:6月22日～8月6日 40日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	1,420,000	
7	文学特別展 吉村萬壺展 (特別展示事業)	吉村萬壺は、2001年「クチュクチュバーン」で文学界新人賞を受賞してデビューし、03年に「ハリガネムシ」で芥川賞を受賞した作家。14年に「ロード病」が話題になったほか、16年にはマンガを執筆し(双子の弟は漫画家)、幅広い層から支持を集めている。小説だけでなく、エッセイや絵画、立体物なども紹介する。 期間:8月11日～9月24日 40日間 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	3,020,000	
8	書道特別展 榊莫山展 (特別展示事業)	書家・榊莫山(1926～2010年)の業績と作品、書道観を紹介する特別展。莫山は26歳という若さで伝統派、前衛派双方の中央展で最高賞を受賞したが、36歳の折、公募団体を脱退し野に下った。その後は個展の開催、題字の揮毫、著書の出版など、精力的かつ多方面にその才能を発揮。莫山ならではの作風や視点で多くの作品を残している。本展では、その業績を回顧し、榊莫山の全体像を紹介する。 期間:10月1日～11月12日 37日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	2,853,000	
9	文学特別展 高村薫の見た空海 (特別展示事業)	作家・高村薫が日本各地を訪ね、今なお人々の心に生き続ける弘法大師・空海の肖像を探ろうとした思索ドキュメントは、徳島新聞で「21世紀の空海」と題して連載され、新潮社から『空海』が刊行された。各地を訪ねた折々の写真とともに、高村薫の捉えた空海像を紹介する。 期間:12月16日～2月8日 40日間 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	2,727,000	

(4) 展示事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
10	書道特別展 巨匠 深山龍洞の仮名 (特別展示事業)	仮名の巨匠・深山龍洞(1903～80年)を紹介する特別展。深山は、漢字や仮名の古典を渉猟して確固たる書の基盤を築き、生涯を通じて多様な作風を展開した。とりわけモダニズムあふれる作風は、今もなお光彩を放っている。本展では、巨匠・深山龍洞の多彩な作品を通して、龍洞の書の世界を紹介する。 期間:2月14日～3月25日 35日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	3,025,000	
11	文学収蔵品展 今井邦子展 (企画展示事業)	1890年、徳島市に生まれた今井邦子は、少女時代から文学を志し、その美貌と才能で文学仲間の花形的な存在となり、生涯、文学への情熱を燃やし続けた。彼女の自伝的著作や、文学仲間の描いた邦子像をたどりながら、その人生と業績を紹介する。 期間:6月1日～7月30日 49日間 会場:文学常設展示室	196,000	
12	書道企画展 墨ってなあに? (企画展示事業)	書道には欠かせない墨だが、その原料や製法についてはあまり知られていない。そこで、本展では墨の製造会社に協力を依頼し、原料や製造道具などの展示を通して分かりやすく紹介する。また小学生にも見てもらえるよう夏休みに開催する。 期間:6月22日～8月6日 40日間 会場:ギャラリー	812,000	
13	書道収蔵品展 中林梧竹の行草書Ⅰ・Ⅱ (企画展示事業)	中林梧竹は近代書道史に名を連ね、明治の三筆に挙げられる書家である。当館では、海老塚的伝氏寄贈の傑作を中心に約300点を県指定有形文化財として収蔵しており、毎年、梧竹展を開催している。今回は、梧竹の書体別展示の2回目。梧竹の多様な行草書を展示し、その魅力を紹介する。 期間:Ⅰ 8月8日～9月28日 46日間 Ⅱ 11月14日～2月11日 71日間 会場:書道美術常設展示室	287,000	
14	文学収蔵品展 佐藤輝夫展 (企画展示事業)	1899年、徳島市国府町に生まれた佐藤輝夫は、日本におけるフランス中世文学研究の嚆矢であり、その水準を世界レベルにまで引き上げた。詩人ヴィヨンや、トリストラン・イズー伝説、叙事詩「ロランの歌」に関する研究は質量ともに圧巻であり、今日なお追隨を許さない。本展では、遺愛品や写真、著作などを展示し、佐藤輝夫のたどった生涯と、その業績を紹介する。 期間:11月10日～1月20日 55日間 会場:文学常設展示室	356,000	

(4) 展示事業

	事業名	概要	予算額(円)	備考
15	書道企画展 第2回 書道創作グランプリ (企画展示事業)	徳島県内の小学4年生から高校3年生までを対象とする書道コンクール。作品応募による予選を行い、予選通過者を対象に当館で本選を実施。本選当日に課題を発表し席書する全国的にも稀なコンクール。席書作品270点(各学年30点。高校は「漢字」「漢字仮名交じり」「仮名」の3部門各30点)と招待出場者(第1回のグランプリ受賞者)の作品を展示し、各学年・各部門のグランプリ、準グランプリ、金賞受賞者90人を表彰する。 期間:12月2日～12月13日 10日間 会場:ギャラリー	773,000	
16	書道企画展 「今年の一文字」展2017 (企画展示事業)	「一年を振り返って、今年を象徴する一字、あるいは思い出に残る漢字一字」を募集し、全ての応募作品をロビーに展示する。作品は、葉書大とし、毛筆で書いたものに限る。 期間:12月13日～12月27日 13日間 会場:1階ロビー	46,000	
	小計		18,215,000	
	合計		22,357,000	